



教育委員コラム

発行元
弟子屈町教育委員会
教育長 岩原 勝行
職務代理 金井 秀明
委員 菅原 誓之
委員 吉田 一徳
委員 宮田 昇子



北海道 弟子屈町
Teshikaga Town

弟子屈町教育委員会
〒088-3292 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号 弟子屈町役場
電話:015-482-2945 HP:<http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

教育委員リレーコラム

第67回青少年読書感想文全国コンクール課題図書を紹介

教育委員 金井 秀明

夏休みになると真っ暗になるまで遊びほうけて、夏休み終了直前、半べそをかきながら夏休みの宿題をやっていた私ですが、本だけはよく読んでいた記憶があります。夏休みはアニメやゲームから離れ、本に親しむ良い機会ですが、何をを読んだらと選択肢が多すぎ選びきれない事もあります。本選びに迷った時など専門家が選んだ課題図書を手に取るのも一手かなと思います。以下に読書感想文課題図書を載せました。あらすじは7月14日の毎日新聞を参考にしました。



◎小学校低学年 (1, 2年生)

- 書名 著者、絵、訳 あらすじ
- ◆あなふさぎのジグモンタ とみながまい作・たかおゆうこ絵 ジグモのジグモンタがいろいろな色の糸で衣服の穴を直していく。思い出ややさしさを糸に込めればお客さんの心も満たされる。
 - ◆そのときがくるくる すずきみえ作・くすはら順子絵 たくまは小学一年生、学校は大好きだがナスが給食に出る日は学校に行きたくない。ナスが食べられるようになる日はくるのかな？
 - ◆みずをくむプリンセス スーザン・ヴァーデ文・ピーター・H・レイノルズ絵さくまゆみこ訳 アフリカに暮らす少女ジージは朝早く起きて遠くまで水を汲みに行く。著者の体験をもとにした絵本。SDGsがテーマ。
 - ◆どこからきたの？おべんとう 鈴木まもる作・絵 母親が作ってくれた弁当。卵焼きやアジフライはどこから来るのか、一つ一つ、生産、流通、調理過程、それに関わる人について丁寧に教えてくれる絵本。

◎小学校中学年 (3, 4年生)

- ◆わたしたちのカメムシずかん：やっかいものが宝ものになった話 鈴木海花文・はたこうしろう絵 校長先生の発案で臭いカメムシを調べることになった。調べることが楽しくなる。実話を基にした絵本。
- ◆ゆりの木荘の子どもたち 富安陽子作・佐竹美保絵 老人ホームとなったゆりの木荘で起こった不思議な話。子供に戻ってしまったお年寄りたちがゆりの木荘の魔法を解いていく。
- ◆ぼくのあいぼうはカモノハシ ミヒャエル・エングラール作 はたさわゆうこ訳 杉原知子絵 ドイツの少年ルフスが、動物園から逃げ出したカモノハシに出会い、カモノハシをオーストラリアに帰す冒険物語。
- ◆カラスのいいぶん：人と生きることをえらんだ鳥 鳴田泰子著 岡本順絵 身近に見かけるカラスの生態を描いたノンフィクション。クルミを道路に置いて車に割らせるなど、知れば知るほどカラスって面白い。

◎小学校高学年 (5, 6年生)

- ◆エカシの森と子馬のボンコ 加藤多一作 大野八生絵 子馬のボンコは牧場を逃げ出し、森で自由に暮らしている。大木のエカシやカメムシたちと出会い、悩みながらも自分の生きる道を模索する。
- ◆サンドイッチクラブ 長江優子作 小学校6年生の珠子はダブル塾通い。ぼんやり迎えた夏休み無心に砂像を作るヒカルと出会う。家庭環境も性格も異なる少女たちの成長物語
- ◆おいで、アラスカ アンナ・ウォルツ作 野坂悦子訳 12歳のパーケルは4か月前に手放した愛犬アラスカが忘れられない。転校生スフェンが新しい飼い主と知って取り戻そうとするが。介助犬の話。
- ◆オランウータンに会いたい！ 久世濃子著 ボルネオでオランウータンの生態を観察してきた研究者が、その現場を臨場感あふれる文書でガイドする。未知の世界をのぞいてみよう。

◎中学生

- ◆with you (ウイズユー) 濱野京子作 母親の介護に携わるヤングケアラーの少女朱音に恋をした中3の悠人。みずみずしい感性がほとぼしる2人の成長の物語。「誰かを大切に思うこと」を描く。
- ◆アーニャは、きっと来る マイケル・モーバーゴ作 佐藤見果夢訳 第二次世界大戦のフランスの村、羊飼いのジョーはユダヤ人の子供たちの亡命に手を貸す。映画にもなった感動作。
- ◆牧野富太郎：日本植物学の父 清水洋美文 里見和彦絵 生活の困窮と不安定な大学での身分に悩みながらも、研究にかける情熱と生き方、それを支えた家族や友人の物語。

次回のリレーコラムは岩原教育長です。



教育あっちこっち情報



「令和3年運動会開催」

教育委員 金井 秀明

6月12日川湯保育所・小学校・中学校の合同運動会が、19日に和琴小学校の運動会が開催され、見学させていただきました。開催前に体温測定、手指消毒をして運動会が開催されました。観客も保護者だけで、川湯合同運動会は保護者応援席も場所指定するなど徹底したcovid-19対策をしての開催でした。大声を出しての応援禁止や待っている間のマスク着用、用具の片付け後の手指消毒など制約事項は多いのですが、子供も保護者も大いに盛り上がっていました。広い空の下、広いグラウンドでの運動会はやはり清々しさを感じさせます。感染対策を実施し運動会を開催された校長、教頭、先生方に感謝し、全力で走り抜けた子供たちに拍手をおくります。



『少年の主張』

教育委員 菅原 誓之

6月10日に第41回「少年の主張」弟子屈大会が開催された。昨年は中止となり、今年も延期を経ての開催でビデオ審査という方法がとられた。例年であれば、公民館講堂に沢山の人が集まり、壇上で緊張感の中での発表だが、今回は審査員と関係者のみが、スクリーン越しにあらかじめビデオ撮影された主張発表を観覧する方式でした。

コロナ禍で会議や研修会等リモート画面には慣れてきましたが、自分の考えや思いを主張するにはビデオではなかなか熱が伝わって来ないのも事実でした。きっと審査員の方々も審査結果を出すのに苦労したことでしょう。しかし、何もかも中止という判断ではなく、今しかない子供達の為に開催するにあたって、各学校の先生方の撮影等の苦労を考えると頭が下がる思いです。



応援の力

教育委員 宮田 昇子

この夏の高体連、中体連の大会は、地区、全道ともほぼ無観客で開催されました。コロナ感染拡大抑制のため致し方ないと理解しながらも、保護者としては残念な思いも…。ですが、参加すら叶わずに部活動引退を余儀なくされた昨年の高校3年生、中学校3年生の無念を思うと、大会が無事に開催されたことに感謝しかありません。

一方で「応援の力」が選手を後押しすることもありますよね。部員数の多い学校は、観客がいなくてもチームメイトから応援をもらえますが、弟子屈の大方の選手は応援のない中、自分の力と気持ちだけで戦い抜いたわけで、よく頑張ったなと思います。

子どもたちが我慢を強いられる日常が終わることを願い、感染予防に心を砕く日々です。



「各学校の参観日にお邪魔しました」

教育長 岩原 勝行

7月は各学校で1学期最後の参観日が行われました。大規模校では学年ごとに分散実施するなど、新型コロナウイルス感染症対策に最大限配慮しての参観日となりました。

今年の参観日での授業では、昨年度末に導入されたタブレットを活用した授業が多く取り入れられており、和琴小学校と美留和小学校ではリモートで両校を結び修学旅行の計画づくりを行っていました。参観した多くの保護者にもタブレットの利用方法の理解を深めることに繋がっていたと思います。マスク姿での授業が当たり前になって一年半、町内の子どもたちからは感染者が出ておりませんが、一日も早いコロナの終息、正常な学校生活の復活を願って止みません。



ミルクちゃん

教育委員 吉田一徳

釧路市動物園の数少ないアイドル、ホッキョクグマのミルクちゃんに先日会いに行ってきました。蒸し暑い中でも、元気いっぱい駆け回ったり、オモチャで遊んでました。

平日に訪れたせいか閑散としていましたが、動物園の学芸員さんによると、今後クラウドファンディングや交付金等で、園内の再整備が行われるとのことでした。

密にならない動物園として名が知られましたが、コロナが終息後に沢山のお客さんが来る事を期待しています。



★ ★ 編集後記 ★ ★

本号も第30号を迎えました。長年編集をしていると、代り映えもなくワンパターンのレイアウトになってきました。ここらへんで私も編集を引退し、広報誌のプロフェッショナル！宮田委員にお願いしてみようかと…。

(菅原)